

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.79		美山町江和地区		生物地理区分		アカマツ林	
				地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	京都府	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地	
	市町村	南丹市		4.低地	5.その他		
	集落名称等	江和	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田	
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池	
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
				10.その他			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
	日本風景街道に登録：名称「美山かやぶき由良里(ゆらり)街道」
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
動物：シカ、イノシシ、サル、タヌキ、テンほか 植物：ヤマユリほか	国の伝建地区「かやぶきの里」より約3km上流、京都大学芦生原生林の手前にあたり年間多くの観光客が行き来する場所にある。またこの里山は日本風景街道「美山かやぶき由良里(ゆらり)街道」に登録された街道の上流地域として、豊かな自然と里山景観が多くの方の目に入る風光明媚な場所である。



撮影時期：H20年8月
写真の説明：京都中ロータリークラブと一緒に伐採後の里山の再興のための活動と、参加した子供達を中心に自然環境学習会を行なった。
参加者 計100名を超えた。



撮影時期：H20年8月
写真の説明：作業後に「里山にふれよう！」の看板を一緒に立てて、市民のみならず、多くの来訪者にも親しまれる里山づくりを目指していくことを参加者らで確認した。

NO.79		美山町江和地区		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	京都府			2.団体・企業・学校等
	市町村	南丹市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	江和			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称	知井地区・江和	
	その他の主体の名称	京都中ロータリークラブ、京都府	
目的 :主 :その他	1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)		
	対象・取組内容	木材価格の低迷によって山にお金を掛けてまで世話をする方が減り、山は放置状態となっている。平成16年の台風23号では、民家への倒木により甚大な被害を及ぼした。また、家の裏がすぐ山ということで鳥獣が頻繁に出てきやすい環境となっており、農産物への大きな被害が毎年発生し、これが地域の大きな課題であった。京都府南丹市美山町知井地区(知井振興会)では、地域挙げて昔のような里山を復活させよう!と平成17年度~平成19年度までの3年間掛けて地域内の全10集落で伐採によるバッファーエリア(空間)をつくり、人間と野生鳥獣の棲み分けを行なった。住民を主体としたこの取り組みは、単に里山を復活させるだけでなく、災害に強い集落づくり、鳥獣被害に強い集落づくり、里山復活と保全による集落景観づくりの一石三鳥を目指した。伐採により切り開き、復活した里山へは鳥獣害対策として防獣ネットを設置した。	
	支援措置		
	2.バイオマスなど新たな資源としての利用		
	対象となる資源		
	利活用方法等	里山を復活・再生させた訳だが、その里山にはできるだけその地域に合った景観樹木を植えることで、地域の景観づくりに取り組もうという発想で、里山の一部を「里山モデル地区」に指定して、地域の女性を中心に継続した活動を行なっている。 一昨年から専門家に依頼し、樹木や草花の現地学習会などを重ね、地域に古来より自生している樹木を採取したり、新しく植栽樹木を購入して、里山モデル地区の管理を行ない、住民への手本としての活動も行なっている。	
	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用		
	自然観察会		
	環境教育・学習活動	* 京都中ロータリークラブ80名と一緒に環境保全学習会を実施	
	里地里山体験・環境保全	* 京都中ロータリークラブ80名と一緒に里山保全活動実施	
農林業体験活動			
エコツアー			
4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
取組内容	集落区民全員で年に数回の出役を行ない、保全作業を行なっている。		
5.地域の良好な景観の保全・修復			
取組内容	里山内には大きくならない景観樹木を集落区民らが総出で植栽・維持管理し、集落景観づくりの取り組みを継続して行なっている。 江和区は、伐採後の里山利活用においてモデル地区と位置づけ、より多彩なグループ等の活動エリアとして取り組みを展開しているところである。 ・昨年、京都中ロータリークラブ80名、地元集落、女性グループも含めて里山に触れ合い、自然環境の大切さを学ぶ取り組みを行なった。 ・里山への植樹活動、山野草専門家による自然環境学習(子供向け)交流会など秋の一日を和気藹々と活動した。 ・京都府の補助金を利用して植栽樹木を購入。		
連携・協働による取組内容・役割分担等			
取組の特徴や強調したい点	そこに暮らしている住民への集落景観づくりへの意識改革がなければ、こうした取り組みは出来ないだろう。今回、知井地区で取り組んできた中で、「里山を復活させる」ということは、それぞれの地主(林家)があり、その理解と協力が得られて初めて実施できるものであると痛感している。この地区では全て個人財産である山の木を無償提供いただき、里山の伐採が実現した。 集落と地域との連携、そして強い指導力(指導者)がいなければ実現できないし、自分たちの集落を本気で美しくしようという意識改革もできないのだと思う。		

取組の概要	荒廃した森林を住民主導で整備し、在来種の樹木で集落景観を維持	課題グループ
事例の特性	人工林の適正管理による里地里山景観復活	農林業 景観文化 仕組 手法
取組の中で他の地域の参考となる点	民家の近くに迫った手入れの行き届かない人工林を伐採し、災害と鳥獣被害に強い集落づくりとともに、里山復活による集落景観づくりを推進。古来からの自生樹木や景観樹木の植樹、山野草専門家による環境学習等も行っている。	